第８章　保存・活用を推進するための体制整備の方針

本町における歴史文化資源の保存・活用の活動は、住民を主体として取り組まれてきたことに特徴がある。本構想の目的である、この地で培われてきた人々の知恵、文化、歴史を受け継ぎ、未来へ伝えていくための地域づくりやまちづくりに資するためには、行政のみでは決して進めることはできず、地域等との連携・協力が必要である。文化財所有者等、地域住民・住民団体、町内小中学校、有識者・専門家・高等教育機関、行政機関等の現状と課題を整理し、保存・活用を推進するための体制整備について方針を定める。

1　住民主体の保存・活用体制の現状と課題

（1）文化財所有者及び保存継承団体

歴史文化資源の維持管理や保存・活用については、所有者及び保存継承団体が主体的に実施している。

大正 10（1921）年に迎賓館として建築された国登録有形文化財「奥山家住宅主屋・洋館」は、明治から昭和初期にかけて政治家・実業家として大成した奥山忠左衛門の遺志を受け継ぐ現当主が守り伝えている。町による一般公開や活用イベントに積極的に協力し、多くの来訪者に公開され、活用されている。

写真 8-1　奥山家住宅の活用
（奥山家アフタヌーンティーパーティ）

町指定無形民俗文化財「内谷春日神社太々神楽」は、明治 14（1881）年に田村地方から伝承され、氏子達により継承されてきた。戦中・戦後に２度途絶えたものの、再び地域の思いから昭和 57（1982）年に内谷春日神社太々神楽保存会が結成され、継承されている。

町指定天然記念物「御瀧神社の湧水」は、光明寺集落における信仰・生業と深く関わりながら、保存管理活動が行われている。毎年４月に清掃活動である「滝普請」が行われ、水場や水路の維持・管理を町内会が主体で行っている。この維持管理活動は、水に伴う信仰・祭礼の活動と一体で継承されており、地域の結びつきを深めることにつながっている。

写真 8-2　御瀧神社の滝普請

個人所有の有形の資源、地域住民がこれまで継承してきた無形の資源、その保存と継承形態は様々である。しかし、少子高齢化・過疎化に伴う担い手の不足により、これまでのような保存・継承が困難となっている。内谷春日神社太々神楽では、そうした現状から内谷地区内に留まらず、町内全域を対象とした「子ども太々神楽体験教室」を開催することで人材の育成を図り、祭礼時だけでなく様々な催しなどを発表の機会とし、広く周知活用を行うことで、伝統芸能の継承を図っている。また、平成 29（2017）年に発足した「くにみ阿津賀志山防塁活用推

写真 8-3　内谷春日神社太々神楽
子ども太々神楽体験教室

進懇談会」は、阿津賀志山防塁の活用推進を目的とする住民団体である。防塁の価値に共感し、賛同する住民で構成され、より広範囲なネットワーク構築をめざし、保存継承に取り組んでいる。

価値ある地域の歴史文化資源を所有者・団体だけでなく地域全体で大切に守り、伝えていく意識を醸成し、住民自らが保存・活用の担い手となって、歴史文化資源を活かしたまちづくりへ主体的に参画する仕組みづくりが不可欠である。

（２）地域住民・住民団体・NPO・民間企業

町内には、表 8-1 に示す住民・民間団体が存在し、活動している。

昭和 46（1971）年に発足した「国見町郷土史研究会」は、現在も続く機関誌の発行や展示・研修活動などを継続し、当町の歴史文化に関わる調査・研究及び教育普及活動の基礎を築いてきた。平成 20（2008）年に始まった「国見町文化財ボランティア」にも積極的に協力している。

平成 20（2008）年に岩手県平泉町中尊寺から「中尊寺蓮」が株分けされたことを受け、地元有志による「国見町中尊寺蓮育成会」が平成 25（2013）年に結成され、育成管理を続けている。国指定史跡「阿津賀志山防塁」とゆかりの深い蓮の育成を通して、防塁とともにその魅力を町内外へ発信している。

「小坂まちづくりの会」は、小坂地区に残る羽州街道をテー

図 8-1　文化財案内ガイドの案内

写真 8-4　まちあるきイベント

表 8-1　文化財の保存・活用に関わる民間団体・任意団体とその活動概要

民間団体・任意団体	主な活動エリア	主な活動の概要
国見町郷土史研究会	町全体	歴史調査・研究、会報誌発行
		歴史講演会・文化祭展示
		方部研修会・フィールドワークの開催
国見町文化財ボランティア	町全体	文化財案内ガイドの実施
国見町歴史まちづくりフォーラム	町全体	歴史まちづくりに対する実践的な研究・提言・啓発
		シンポジウム、ワークショップ、研修会等の開催
国見伝統文化保存会	藤田地区	鹿島神社例大祭の保存・継承活動
大木戸歴史むらづくりの会	大木戸地区	あつかし歴史館イベント
明日へ。ビックツリー・イルミネーション実行委員会	町全体	町内及び阿津賀志山山頂のイルミネーション点灯と打上花火の開催
小坂まちづくりの会	小坂地区	ウォーキング大会等のイベント開催
内谷春日神社太々神楽保存会	内谷地区	内谷春日神社太々神楽の継承及び祭礼での奉納
		町内イベントにおける神楽公演
		子ども太々神楽教室
		太々神楽復活プロジェクト
国見町中尊寺蓮育成会	西大枝地区	中尊寺蓮の育成管理

写真 8-5　あつかし歴史館のイベント

写真 8-6　ふるさと学習「国見学」

マとしながら、地域の歴史文化資源と蕎麦作りによる催しを行い、地域の活性化を進めている。

平成 29（2017）年に結成された「大木戸歴史むらづくりの会」は、旧大木戸小学校が国見町文化財センター「あつかし歴史館」に改修されたことを契機として、歴史文化を活かした地域振興に取り組んでおり、同歴史館での催しも精力的に行っている。

少数ではあるが、上記のような団体組織はあるが、NPO 団体・民間企業との連携はない。町外の団体・企業へ担い手を広げる取り組みも必要である。

（３）町内小中学校・生涯学習

町内の小中学校では、昭和 29（1954）年頃から阿津賀志山への遠足や地域学習で、阿津賀志山防塁について学んでいた。現在は、ふるさと学習である「国見学」として続けられている。阿津賀志山防塁をはじめとする町の歴史文化資源やその周辺環境を学ぶことで国見を知り、体験し、誇りに思い、守り、伝えることにつながる大きな役割を担っている。

また、生涯学習においても、町民の意識・教養を高め、歴史文化の理解を深める学習機会や情報を提供している。

表 8-2　歴史文化資源の活用と普及・啓発に関する取り組みの一例（平成 30〔2018〕年度実施事業）

タイトル	年月日	概要等
あつかし歴史館イベント	平成 30（2018）年 5 月～ 平成 31（2019）年 2 月	歴史と年中行事にまつわるイベント 4 回述べ約 800 人
奥山家公開（くにみしゅらん）	平成 30（2018）年 6 月、12 月	奥山家内部公開　2 回延べ 26 人
総合学習での国見学の取り組み	平成 30（2018）年 6 月 29 日	国見小学校 6 年生史跡探検隊　71 人
石工（ロック）フェス in 石蔵 2018	平成 30（2018）年 9 月 16 日	旧小坂村産業組合石蔵で体験型イベント 200 人
奥山家一般公開（義経まつり）	平成 30（2018）年 9 月 23 日	奥山家住宅洋館を一般公開　746 人来館
藤田宿まちあるき（義経まつり）	平成 30（2018）年 9 月 23 日	藤田宿のスポットをまちあるき　64 人参加
くにみ周遊ツアー	平成 30（2018）年 8 月 3 日、5 日、11 月 2 日	庁内周遊ツアーの実施。3 日間計 6 回　94 人
道の駅あつかしの郷から巡る夏のご案内 Week	平成 30（2018）年 7 月 28 日～ 8 月 12 日	道の駅特別ブースで案内対応　計 7 日間 約 400 人
国見ホイスコーレ・短期プログラム	平成 30（2018）年 10 月 6 日～ 8 日	古民家を活用した〝人生の学校〟づくりプロジェクト　21 人
旧佐藤家住宅公開	平成 30（2018）年 11 月 3 日～ 4 日	民話の会民話語り、内谷太々神楽公演
古民家体験教室	平成 30（2018）年 11 月 10 日	少年仲間づくり教室生ほか　37 人
奥山家住宅クリスマスワークショップ	平成 30（2018）年 12 月 17 日	奥山家洋館クリスマスワークショップ 26 人参加
かまど de ご飯（桜の聖母短大）	平成 31（2019）年 1 月 26 日	国見石のかまどでの炊飯実演　100 食提供
文化財ボランティア案内件数	平成 30（2018）年度	48 件 2,439 人（平成 29 年度 70 件 2,902 人）

（４）有識者・専門家・高等教育機関

歴史文化資源の適切な保存と継承のためには、必要な知識や情報を提供するアドバイザーなどの有識者・専門家が必要であり、高等教育機関との連携も重要である。

国見町文化財保護審議会や国見町歴史的風致維持向上計画協議会、国見町阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会などは、学識経験者や有識者を委員に委嘱し専門的指導やアドバイスを得ている。

また、保存・活用に関する事業を展開する際は、郡山女子大学、桜の聖母短期大学、福島大学と連携を図っている。

表 8-3　歴史文化資源の活用に関わる域学連携

連携教育機関	年度	概要等
郡山女子大学	平成 27（2015）年度～	国見石保存・活用調査
	平成 28（2016）年度～	石工（ロック）フェス in 石蔵
桜の聖母短期大学	平成 28（2016）年度	食育推進プロジェクト
福島大学	平成 29（2017）年度	町内歴史文化の基礎的調査 ・小坂歴史探訪 ・小坂まるごと博物館 ・大木戸まるごと博物館

（５）行政機関

国・県・町の行政機関は、文化財保護法や条例に基づき保存・活用の施策を行ってきた。本町においては、国見町文化財保護条例の制定以降、指定等文化財の保存・活用に努めるとともに、「国見町歴史的風致維持向上計画」の認定を契機に歴史まちづくりの取り組みを加速した。「道の駅国見あつかしの郷」、国見町文化財センター「あつかし歴史館」、「阿津賀志山防塁下二重堀地区歴史公園（仮称）」の整備事業も同計画事業に位置付けられたものである。また、文化財所有者等、住民・地域団体に対し、活動支援を行っている。

一方、町が整備を行った歴史文化資源に関わる施設の運営・活用や各団体・所有者の活動を町全体の取り組みにつなげるための調整、更に外部の有識者や専門・関連機関との連携など、歴史文化を保存・活用するためにマネジメント機能を高める取り組みが課題である。

写真 8-7　くにみ縄文体験

写真 8-8　石工（ロック）フェス（石切り体験）

写真 8-9　かまど de ご飯
（国見石のかまどでの炊飯実演）

写真 8-10　大木戸まるごと博物館

写真 8-11　国見ホイスコーレ

２　保存・活用体制の整備の方針

（１）文化財所有者及び保存継承団体

所有者及び保存継承団体の保存継承形態は、歴史文化資源の来歴や地域の関わりによって多種多様であるが、持続的な維持管理と保存継承のためには、後継者や担い手の育成が重要である。

そのためには、歴史文化資源の価値や魅力に共感する理解者を増やすことが必要である。特に、伝統芸能などの無形民俗に関わる資源の場合は、後継者育成に向けた啓発や伝習の機会創出などこれまでの取り組みを継続し、保存継承を図る。

（２）地域住民・住民団体・NPO・民間企業

地域共有の歴史文化を守ることは、地域のつながりを深めることになり、その活用は地域振興につながる。

「国見町郷土史研究会」による主体的な調査・研究や教育普及活動は、地域における歴史文化の発見・認知につながり、「小坂まちづくりの会」「大木戸歴史むらづくりの会」などの活動は、地域を盛り上げる取り組みにつながっている。地域全体で大切に守り、伝えていく意識の醸成、住民自らが保存・活用の担い手となって、歴史文化資源を活かしたまちづくりへ主体的に参画する仕組みが不可欠であり、主体的な取り組みを一層喚起する必要がある。今後もこれらの取り組みと活動の広がりを支援しながら、住民主体・住民連携による保存・活用の推進を図る。

また、担い手を外に広げるために、町内外の NPO 団体・民間企業への働きかけも進める。

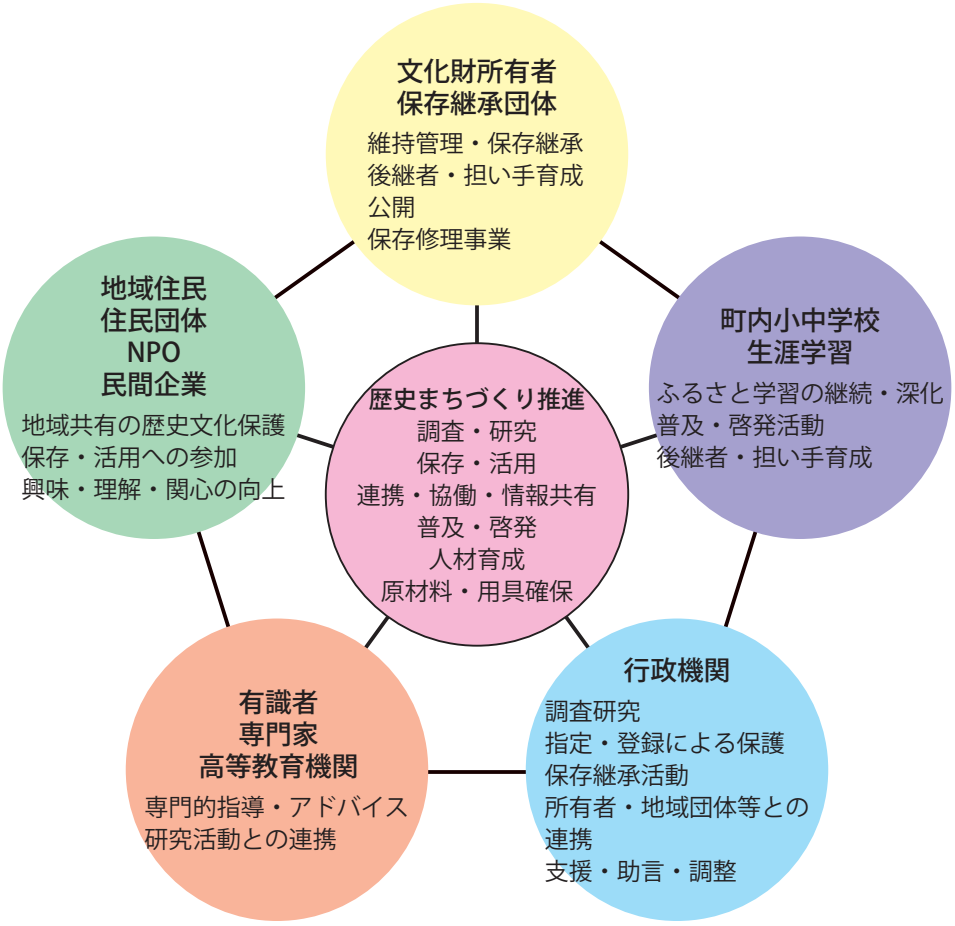

図 8-2　保存・活用推進のための体制イメージ

（３）町内小中学校・生涯学習

小中学校のふるさと学習「国見学」の継続と学習内容の深化を図り、国見を知り、体験することで、国見町を誇りに思い、どのように守り、伝えるかを、子どもたちと一緒に考えることで、将来の担い手・後継者育成を図る。

また、地域に開かれたコミュニティスクールの取り組みや教員との連携体制の強化を図るとともに、生涯学習においても継続的に学習機会や情報を提供する。

（４）有識者・専門家・高等教育機関

本町ならではの歴史文化資源の保存、活用策については、学識経験者・有識者からなる組織の専門的指導やアドバイスを得ながら取り組みを進める。また、個別の歴史文化資源における保存・整備に関する検討が必要な場合は、現地指導や有識者による委員会を設置し対応する。更に、高等教育機関とは、研究活動や学生の柔軟なアイデアと連携した取り組みを継続する。

（５）行政機関

本構想の実現に向け、国・県の助言と支援を受け、住民団体と連携した歴史文化資源の把握に向けた調査研究、所有者・保存継承団体とともに進める保存継承、所有者等・地域団体と関わりながら多くの人々から価値と魅力を共感・共有いただける活用を推進し、観光振興や交流、地域の活性化に向けた歴史まちづくり各種事業に取り組む。

また、住民主体・住民連携による歴史文化の保存・活用に向け、所有者と保存継承団体・民間団体等で組織した「国見町歴史まちづくりフォーラム」が、平成 26（2014）年に設立されている。町も参画しながら、課題解決のための情報交換、広く地域住民等の理解と協力を得るための情報発信と啓発に努め、住民主体・住民連携による歴史文化資源の保存継承・活用の取り組みを行ってきた。このフォーラムの活動をより広げ・活発化することで、町は支援・助言・調整を行うコーディネーターとしての役割を果たし、本町全域の保存・活用に向けた取り組みにつなげる。